変革と飛躍の
2024年

- 飛躍の活路を提示
- 特有の政治的出来事
- 強大な発展力の誇示
- 先進文明創造での進展
- 圧倒的な抑止力
- 新たな転機を迎えた対外関係

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

変革と飛躍の2024年

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

まえがき

2024年にわが人民は、朝鮮労働党の指導の下に折り重なる挑戦と困難を果敢に乗り越え、政治と軍事、経済と文化をはじめとする全ての分野でめざましい成果を収めた。

地方変革の大業を実現するための創造闘争が開始され、国家経済の全般的な成長推移がしっかり堅持され、年中、新居入りが国の津々浦々で続けられて全国の人民を喜ばせた。

首都平壌の和盛地区に独特な建築様相を誇る林興通りが立ち上がり、自然災害に見舞われた地方に堅固な堤防が築かれ、新しい住宅が建てられて被災地が「農村文化都市」に変わった。

国防分野では、敵対勢力に対する圧倒的な軍事力が拡充され、米国とその追随勢力の戦争挑発策動を事前に制圧・粉砕した。

2024年6月に行われた朝ロ首脳の平壌での対面は、長い歴史的伝統を持つ両国間の善隣・友好関係を新時代の要求に即して包括的戦略パートナーシップ、不抜の同盟関係に昇華・発展させた。

毎年、変革の実体を創造してきたが、2024年は文字通り変革の年、飛躍の年であった。

2024年に収められたわが人民の全ての成果は、ひたすら人民のための苦労を無上の光栄と見なし、国政の万事を人民のために無条件志向・服従させてきた金正恩（キムジョンウン）総書記の為民献身のたまものである。

本書は、画期的な成果をもたらした2024年に社会主義の全面的発展を倍加させるための闘いにおいてわが人民がもたらした成果を紹介する。

目　次

1. 飛躍の活路を提示

2024年に国家発展の全面的・均衡的・急速な上昇に関する新たな路線が提示され、わが人民には全面的国家興隆の活路が開かれた。

実際の変革のために

新たな勝利への飛躍を志向するわが人民の愛国的熱意と発奮力が非常に強まる中、2024年度の党及び国家活動の発展方向と方略を策定する朝鮮労働党中央委員会第8期第9回拡大総会が2023年12月末に行われた。

会議で金正恩総書記は、『2024年度の闘争方向について』と題する第1議案に対する結語を述べた。

総書記は、われわれはこの3年間の成果と経験に基づいて残りの2年間を第8回党大会決定の実行を着実に締めくくり、次の段階の新たな発展を準備する効果的な過程にすべきだと述べた。

特に、来年から党大会決定の貫徹で停滞していたり障害となっている問題の解決に注力して、これまでの成果が一層拡大され効果が現れるようにし、計画した全ての課題が立派に実を結ぶようにすべきだと述べた。

また、2024年は社会主義建設の全ての部門で攻撃の勢いをさらに高揚させて、第8回党大会の提示した闘争目標達成の勝算を確定づけるべき決定的な年だと述べた。

言い換えれば、2024年末には全ての部門、全ての単位で5カ年計画遂行の明白な実践的保証が確保されなければ

ならないと言った。

結語で総書記は、優先的な注目を払うべき問題は国家的な行政・経済活動体系と秩序を強化することだとし、内閣が憲法の付与した全般的国家管理機関の任務に即して国家経済の命脈を生かし、目的志向的な経済発展を牽引する上で提起される原則的問題と実践方途を具体的に明示した。

総書記は、人民経済の全ての部門で生産の増大に拍車をかけ、整備・補強を早期に完了し、2024年度にも12の重要部門を引き続き押し立て、ここに力を集中すべきだと強調し、金属、化学、電力、石炭、機械、鉄道運輸をはじめとする基幹工業部門で遂行すべき重点的課題を提示した。

結語は、首都建設と第8期党中央委員会が歴史的な決断を下して始めた重要課題である農村住宅建設を一層力強く推し進める上で提起される諸課題と、党中央が構想している雄大な展望建設計画を実現するための実践的な問題に言及した。

総書記は、国の全般的な農業インフラの実態と農業技術力に対する調査・評価に基づいて農業機械発展戦略と段階別目標をはっきりと立て、灌漑システムの完備と干拓地建設を引き続き力強く推し進めることをはじめ農業生産力を持続的に増大させるための具体的な課題と方途を提示した。

結語は、中心的で牽引力の強い先端科学技術発展計画を目的志向性をもって設定し、科学研究陣を集中して実行していく体系を確立し、国の科学技術発展を統一的に指揮・管理することをはじめ科学技術力の絶え間ない増大、科学技術重視の実際の生命力で社会進歩と国家の全面的興隆を促進させるための重要目標と方途を提示した。

また、専攻関連科目に研究型授業法、研究型学習法を受け入れるなど、教育内容と方法をさらに具体化、多様化、実用化して党政策の実現を教育学的に保証することによって、わが国の教育を先進国の水準に引き上げる上で2024年がより大きな変革の年となるようにすべきだと強調した。

全人民が新年の進軍の途についた2024年1月15日、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第10回会議が開かれた。

総書記は会議で『共和国の興隆・発展と人民の福祉増進のための当面の課題について』と題する施政演説を行った。

総書記は施政演説で、国家経済の上昇推移を引き続き高揚させて、国の経済全般を安定的かつ持続的な発展軌道に確固と押し上げるための問題について強調した。

総書記はまず、基幹工業部門に第一義的な意義を付与し、この部門で自立性を一層強化し、近代化を実現して経済全般を飛躍的に上昇させる問題、建設事業でそれまでの

成果に満足したり気勢を緩めてはならないという問題、鉄道の役割を高める問題、情報産業部門と国土環境保護部門、都市経営部門で社会主義の全面的発展の要請に即して国家管理と経済成長、人民の文明生活に必要な条件と環境を不断に改善するための当面の課題と展望計画を着実に推し進める問題などに言及した。

また、経済指導と管理で統一性をしっかり保障し、全ての部門が内閣の決定と指示に無条件服従する厳格な規律と秩序を確立する問題、インフラと人口・労働力管理といった経済発展の重要因子を正確に予測して必要な措置を講じ、国家経済機関の活動を将来を見通して発展させるための体系も確立して人民経済全般を安定的かつ持続的に発展させる問題など、経済成長において鍵となる問題に対する解決方向を明示した。

そして、共和国政府が最も重視し、力を入れるべき至上の課題は人民生活を一日も早く安定・向上させることだと指摘した。

総書記は、地方の立ち後れた現状に観照的に対応し、経済的条件にかこつけて地方工業発展のための重大措置を取れない何の根拠や理由もない、どの市・郡も条件や実態はほぼ同じであり、要は、どのようにして地方工業工場を建設し、生産を正常化するかという可能性を見いだすことである、と強調した。

総書記は、毎年20の市・郡に近代的な地方工業工場を無条件建設する事業を政策的課題として党が直接掌握し、金化郡のような水準できちんと実行して、10年内に全国の全ての市・郡、言い換えれば全国の人民の基本的な物質・文化生活水準を一段階飛躍させようと計画しているとし、その政策を「地方発展20×10政策」と命名した。

また、社会主義建設の各分野で全面的発展を志向している今日の現実は、いつにもまして科学技術の威力、人材の活躍を要求しているとし、国家科学技術発展戦略を採択し、国家重点課題と研究目標を設定する上で政策的線を正確に通し、投資の順序を正しく定め、経済発展と人民生活の改善に現存の科学技術陣を最大限合理的かつ効率的に活用する問題について指摘した。

教育部門で、党の教育政策の要求通りに初等及び中等教育と高等教育の質的水準を一段階高めるための活動を策略的に将来を見通して行い、総合的な教育器材工場の建設を推し進めて教具・校具と実験・実習器材の保障能力を高め、都市と農村の教育水準の格差を決定的に縮める問題、保健医療部門で医療サービスの水準を高め、保健医療部門の物質的・技術的土台を改善し、保健医療保険基金による医療保障制を正しく実施する問題などに言及した。

総書記は、軍事力はすなわち国家と人民の安全であり、

尊厳であり、威力であるという確固たる信念を持ち、敵のいささかの軍事的動きも見逃すことなく鋭く注視し、いかなる形態の挑発的行為も圧倒的な対応で徹底的に、容赦なく制圧・粉砕できるように万般の対応態勢を備えなければならないと強調した。

また、人民軍の戦争に対処する準備は武力装備の近代化と切り離して考えることはできず、軍需工業部門で当面の情勢と革命発展の要請に即して、2024年に朝鮮民主主義人民共和国の核戦争抑止力強化と国家防衛力増大のための責任ある闘争で堅持し貫徹すべき戦略的課題を提示した。

そして、われわれが培っている最強の絶対的な力は、何らかの一方的な「武力統一」のための先制攻撃手段ではなく、われわれ自身を守るために必ず培わなければならない、自衛権に属する正当防衛力であることを改めて強調した。

総書記が朝鮮労働党中央委員会第8期第9回拡大総会で明示した2024年度の闘争方向と、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第10回会議で行った施政演説は、わが人民の社会主義強国建設を目指す闘いで実際の変革を起こすための指針となった。

画期的な里程標

国家興隆の短期的・中長期的な計画を調整し、拡大・深化させ、その完璧な履行を予断性をもって推し進めるために、2024年6月、朝鮮労働党中央委員会第8期第10回拡大総会が開かれた。

総会では、2024年度の党及び国家の主要政策の実行状況に関する中間総括と対策についての報告が行われた。

報告は、朝鮮労働党と人民が国の内外の環境が厳しさを増す中でも党と国家の主要政策的課題を立派に実行するための闘いを果敢に展開して上半期に収めた刮目すべき成果に触れた。

金正恩総書記が綱領的な結語を述べた。

結語は、党中央委員会第8期第9回総会が決定した闘争目標を達成する過程で収めた成果と要因、意義に言及した。

また、幾多の挑戦と難関を克服する闘争過程についてはっきりと確信したのは、社会主義建設の全面的発展を目指す総体的な前進の原動力と加速力がより増大し、成長していることだと指摘した。

年初に建国以来初めての壮大な地方発展計画を承認し、

本格的な施行段階に入っており、金属、化学、電力などの重要工業部門が計画を月別、四半期別に大したアンバランスなしに完遂し、農業部門と建設部門をはじめ各部門が成果を収めたと指摘した。

結語は、当時の経済活動実態に対する科学的かつ具体的な分析に基づいて内閣が経済全般を責任を持って掌握・指導し、国の経済を発展させるための活動を長期的な展望に立って、先を見通して、方法論を持って行う上で提起される明確な実践方途を提示した。

また、基幹工業部門が意気衝天した勢いで2024年度の意義ある変革的な成果を収める上で主導的役割を果たすべきだとし、鉄道部門、建設部門に提起される課題を提示した。

そして、国の海洋生態を保護し、首都の風致をさらに美しくし、災害復旧に必要な物資の備蓄と保障体系を整然と確立することをはじめ国土環境保護と都市経営、災害防止部門に提起される当面の課題を提示した。

2024年度の農業で最も重要かつ鍵となる問題と、農業生産の安定性を保障するための方途が具体化された。

結語は、地方経済発展を目指す活動を党的、国家的に強く組織・展開することについて強調し、翌年に工事を行う市・郡を選定して事前の準備を手ぬかりなく整え、地方経済を活性化する上で提起される具体的かつ科学的な

実務的対策を明示した。

また、国の軽工業発展の土台を固める活動を先を見通して展開し、内閣と平壌市が首都の住民の生活を改善するための活動計画を無条件実行し、各道・市・郡でも住民の生活上の不便を解消するための活動を重要な政策課題としてとらえていくべきだと強調した。

結語は、科学技術力の発揮と向上を優先させることを、人民経済発展12の重要目標をはじめ2024年度に計画した目標を成功裏に達成し、国家的に推進されている重大事業を成功裏に完結するための優先的な課題として提起した。

また、教育と保健医療、文学・芸術、出版・報道、スポーツをはじめとする文化部門に提起される具体的な課題とその実現のための原則的な問題に触れた。

法の機能と役割をさらに強めて国家管理と社会生活の全ての分野に革命的な活動体系と規律を確立し、有利な発展環境をつくり出すべきだと強調した。

総書記は結語で、人民軍と全ての共和国武装力の軍事政治活動方向について明示した。

総書記は、いかなる困難と苦衷に直面するとしても、わが党と政府の真意を固く信頼し、全ての政策と計画をしっかりと支持するわが人民に、2024年度にも自負し肌で感じることのできる実際の変化と結実をもたらすためには、

全党が一心奮発して下半期の闘争に拍車をかけ、全力で邁進しなければならないと強調した。

総書記の結語は、共和国の聖なる発展道程で重大な転換期が到来した時代の要求に応じて党の指導力と戦闘力を全面的に強化し、全党と全人民の高い自覚と堅忍不抜の奮闘によって革命の前進速度を加速化していける明快な闘争指針と科学的な方途を示した実践綱領であり、威力ある戦闘的な旗印であった。

全人民が朝鮮労働党と一心一体をなした愛国の力で強国の英雄伝記をつづっていく激動の時期に、共和国創建76周年を迎えて、2024年度の国家活動全般に対する総括的分析に基づいて闘争の成果を一層豊富にし、増幅させるための諸指針が厳かに提示された。

9月9日の国慶節に際し、総書記は党と政府の指導幹部に会って祝い、『偉大なわが国家の隆盛・繁栄のために一層奮闘しよう』と題する綱領的な演説を行った。

総書記は演説で、歴史的な第8回党大会が示した闘争目標の達成の勝算を確定づけるべきそれまでの国家活動全般の状況を総合的に深く分析・評価し、国家活動において堅持すべき闘争方向と指針を詳細に示した。

総書記の演説は、われわれの崇高な理念、われわれの聖なる偉業である富国強兵のための歴史的な活動でわが国家特有の優勢をしっかりと堅持し、全ての発展可能性を

正確に探求してねばり強く奮闘することによって、社会主義建設の全ての部門で均衡的・実質的・同時多発的な変革と振興をより一層促進させる威力ある実践綱領、活気に満ちた躍進を裏付ける旗印となった。

2．特有の政治的出来事

2024年に党創立の理念と精神の継承者を育成する朝鮮労働党の中核育成拠点が建てられ、党創立79周年と祖国解放79周年、戦勝71周年に際して国家的行事が行われた。

これを通じて、偉大な領袖金日成（キムイルソン）主席と偉大な指導者金正日（キムジョンイル）国防委員長の志を体して社会主義強国建設偉業を立派に継承・完成し、戦勝の歴史を代を継いで輝かせていくわが人民の意志が誇示された。

党強化の戦略的とりでの構築

2024年に朝鮮労働党中央幹部学校が立派に整えられたのは、朝鮮革命において党創立の理念と偉業の輝かしい継承と勝利を確実に保証する強力な戦略的とりでが築かれた歴史的な出来事であった。

金正恩総書記の直接の発起と指導によって、党幹部育成の最高学府である朝鮮労働党中央幹部学校が、由緒深い錦繍山地区に朝鮮労働党の絶対的尊威と偉業の必勝不敗の象徴物として壮大に建設され、5月21日、竣工の日を迎えた。

朝鮮労働党の雄志を最高のレベルで実現するために奮起した建設者の創造力と献身的な努力により、この学校は、チュチェ教育部門のモデル建築として着工から1年余りの間に立派に完工した。

理想的な敷地に建設された学校は、延べ建築面積13万3000余平方メートルで、それぞれの区画がその使命と機能、用途に合わせて近代的かつ実用的に整えられた。それに、先進的な教育システム並びにハイレベルの教育条件と環境も整えられた。

竣工式に出席した総書記は、『党創立の理念と精神に

忠実な新時代の党幹部を育成せよ』と題する綱領的な演説を行った。

朝鮮労働党中央幹部学校の竣工は、朝鮮労働党の万年大計のための力強くて新たな振興の歩みとして歴史に記された。

6月1日、朝鮮労働党中央幹部学校の開校式が学校創立78周年に際して盛大に行われた。

総書記が開校式に出席し、意義深い記念の辞を述べた。

総書記は、朝鮮労働党建設の新時代、わが党強化の最全盛期は、今日この時点で実際の幕を上げるようになったとし、党中央の思想と路線を正しく認識し、それをしっかり具現して、強大で文明的かつ先進的な国家を打ち立てる上で柱石となるべき党幹部人材に対する要求は、極めて切実なものになっていると強調した。

総書記は、政権党にとって、政治と軍事、経済、文化の各分野、各地域の発展を主導していける党幹部人材こそ、最も貴重で決定的な資源であり、彼らの役割は革命と建設が遠く前進するほどなおさら重視されると述べた。

そして、この学校の特徴が世界に光り輝く人民の国家を建設する党幹部の育成であることを考えるとき、学校の使命はより栄えあるものとなり、皆さんの責任はもっと重くなる、中央幹部学校の教員と幹部に望みたいのは、全ての学生を、全党を導く優れた党幹部、国家社会発展の各分野を先進的かつ文明的な発展へとたゆみなく



朝鮮労働党中央幹部学校

導く有能な指揮官に育て上げることである、と述べた。

また、共和国の最高政治学園の栄えある学生が、今日の立派な決意を必ず実践に移して、党と人民の期待に背くことなく、国の有能な担い手になるものと信じている

と述べた。

総書記は、党中央委員会を代表して、わが党の栄えある継承を保証し実現する聖業で、中央幹部学校が当然前衛に立つであろうとの確信を表明し、学校に朝鮮労働党旗を授与した。

10月10日、総書記は朝鮮労働党中央委員会機関紙『労働新聞』に、『幹部は党創立の理念と精神を体質化した共産主義的革命家になるべきである』と題する歴史的な談話を発表した。

談話は、全ての幹部が党創立の理念と精神を体質化し、全党強化と国家興隆の最も輝かしい時代を開いていく今日の闘いで、革命の指揮メンバーとしての責任と本分に忠実でなければならないと指摘した。

また、幹部が党創立の理念と精神を体質化した共産主義的革命家になるべき必要性と課題を明らかにした。

総書記の談話は、党の中核勢力である幹部が党創立の理念と精神を完璧に体現した共産主義的革命家に準備するための理論的・実践的問題に全面的な解答を与えた大百科全書であり、全党強化と国家興隆の新時代を切り

開くための闘争方向がはっきりと示された不滅の大綱である。

このように2024年は、党を強化するための活動ではっきりした足跡を残した年であった。

増大された政治的・思想的威力

2024年に、わが国家の政治的・思想的威力を誇示し強化する上で大きな意義を持つ重要な政治行事が最高の水準で行われた。

祖国解放戦争勝利71周年に際して行われた多彩な政治行事は、70余年前の勝戦史を世代を継いで輝かせようとするわが人民の意志を誇示した政治的契機であった。

7月26日、参戦老兵と共に祖国解放戦争参戦烈士墓を訪れた金正恩総書記は、祖国のために青春も生命も惜しみなくささげて戦った戦勝世代の英雄的精神と高貴な犠牲を振り返り、烈士墓に献花し、烈士に崇高な敬意を表した。

また、この日の午後、大城山革命烈士陵を訪れて献花台に献花し、祖国の自主独立と主権守護のための聖業に貴い生命をささげた革命烈士を追慕して黙祷し、わが国家と人民の貴い思想的・精神的遺産を残し、不滅の革命

伝統を創造した烈士の魂と精神が名誉の壇上で永久に生き続けることを祈願し、崇高な敬意を表した。

総書記はこの日友誼塔を訪れて、アメリカ帝国主義の強盗さながらの武力侵攻を決死の覚悟で撃退するわが人民の革命戦争を血潮をもって支援した中国人民志願軍烈士に崇高な敬意を表した。

7月27日、祖国解放戦争勝利71周年に際した戦勝世代との交歓会が平壌体育館で行われ、同日夕、平壌体育館の広場では、偉大な戦勝71周年慶祝祖国解放戦争期の象徴縦隊の記念行進儀式が盛大に挙行された。

総書記が参戦老兵たちと共に交歓会と記念行進儀式に出席した。

儀式の開始を告げる信号ラッパの音が響くと、総合軍楽隊が軽快なメロディーと迫力ある律動、特色ある技巧で軍楽礼式を繰り広げた。

創建されて間もない新生朝鮮を導いて、傲慢なアメリカ帝国主義の「常勝」の伝統を恥辱と敗北の伝統に変え、われわれの誇らしい国号と国旗を強国の頂上に浮上させた百戦百勝の鋼鉄の総帥金日成主席の肖像写真を先頭に立てて、祖国解放戦争期の各象徴縦隊の記念行進が始まった。

最高司令部を防衛する磐石の防弾壁であった親衛中隊象徴縦隊に続いて、祖国解放戦争勝利に特出した寄与を







偉大な戦勝71周年を慶祝する祖国解放戦争期の象徴縦隊の記念行進儀式

したわが革命武力の初の近衛部隊、伝説的な近衛師団象徴縦隊が、不滅の功勲が記された軍旗を力強く翻しながら次々と広場に入った。

ついで、祖国の領土と領海、領空を鉄壁のごとく守っている共和国政権の守護隊である英雄的朝鮮人民軍の陸・海・空軍縦隊が、強大さと近代性、勇敢さを誇示しながら歩武堂々と行進していった。

行進が終わると、朝鮮人民軍空軍飛行隊が扇の骨のような隊形で広場の上空を通過しながら戦勝節の歓喜を増し、慶祝の花火が7月の夜空を美しく飾った。

一方、7月27日夜、祖国解放戦争勝利記念塔の前では、偉大な戦勝71周年を慶祝する公演が盛大に行われた。

語りと歌『戦勝の祝砲よ語れ』から始まった公演舞台には、戦時歌謡と戦勝賛歌、継承の各年代に高く響いた信念の歌が上がった。

公演は、祖国の尊厳と自主権を守り抜き、新しい世界大戦の勃発を頑強に挫折させた全人民的愛国抗戦に対する敬虔な追憶を呼び起こした。

公演は、『戦勝の祝砲よ語れ』『戦勝の日7・27』の歌謡で絶頂に達した。

朝鮮革命の最も運命的な年代に、偉大な信念と団結の威力をもって、最も正義の力の神話を生み出した戦勝世代

にささげる花吹雪のように色とりどりの花火が打ち上げられ、不滅の「勝利」像と英雄戦士の群像を明るく照らした。





祖国解放戦争勝利71周年慶祝公演

偉大な戦勝71周年に際して行われた各記念儀式は、勝戦史を永遠に受け継ぎ、時代を新しい勝利と光栄、繁栄の時代として輝かせていくわが人民の揺るぎない意志を力強く示した契機となった。

3. 強大な発展力の誇示

2024年は、わが国家特有の発展潜在力が誇示された年であった。

社会主義建設の新たな隆盛期の到来と、首都と地方が共に変わり共に興る全面的発展、全面的興隆の重大な変化を目の前の現実として実感させる創造物が数多く立ち上がった。

経済分野において明確な変化と成長のテンポが遂げられ、地方振興の新しい歴史が開かれるようになったのは、わが人民が収めた今一つの誇らしい成果である。

顕著な上昇局面

2024年に国家経済全般が成長推移をしっかりと堅持し、人民の福祉と直結した実際の結実がもたらされた。

その結果、圧延鋼材は127%、非鉄金属は106%、窒素肥料は103%、電力は101%、石炭は110%、セメントは101%、原木は104%、水産物は101%、鉄道の貨物輸送量は108%、織物は101%、穀物は107%に遂行され、それに住宅建設を含めた人民経済発展12の重要目標の年間計画が成功裏に遂行された。

金星トラクター工場第2段階改造・近代化工事と黄海製鉄連合企業所の省エネ型酸素熱法溶鉱炉建設をはじめとする整備・補強工事が成功裏に進められた。

農業部門に科学農法を積極的に取り入れて再び豊作をもたらし、灌漑建設及び復旧第2段階工事が4月まで全部完了して、農業生産の物質的土台が一層強化された。

2024年1月、首都の中心部にある3大革命展示館で盛況を呈して行われた農業機械展示会には、自国の技術力で農村の実情と農業機械製作技術に即してその効率性と性能を高めた数百種の農業機械が出品された。

2024年3月15日、江東総合温室農場の竣工及び操業式が行われた。

先進的な技術装置が据え付けられたさまざまな類型の温室からなる江東総合温室農場は、高度の集約化、最適化、知能化が実現した農場である。

たった1年間に首都郊外の江東地区に立ち上がった江東総合温室農場の特徴は、野菜の栽培を工業化する上で経済的に実利の大きい近代的なガラス水耕温室が占める面積が、すでに建設された仲坪温室農場や連浦温室農場に比べて数倍に達することである。

また、初めて導入された新しい先進的な技術だけでも10余に達する。

一名「人工光植物工場」と呼ばれる円筒形野菜栽培装置温室、半球形ガラス水耕温室など7類型の温室からなっている。

江東総合温室農場は、野菜生産がデジタル化され、変化する環境を能動的に認知するとともに、温室類型別に最良化、最適化された環境管理方法と作物栄養管理方法を決めて数十の分操作所とそれに基づく各棟のコントロール・システムが稼動するようになっている。

3月27日、江東総合温室農場の勤労者用に建てられた住宅の竣工式が行われた。

巨大な温室群にマッチして自然の起伏に沿って立体感を与えながらも特色あるように配置された多様な形の2～3階建て、多層、段々式住宅と学校、文化会館、総合便益施設、







江東総合温室農場

公園などが整えられた美しい「農場都市」は、農村文明創造の今一つのモデルであった。

2024年、全国の児童・生徒・学生に国家の負担で良質の制服と学用品を提供するための重大措置により、各道に制服と靴を専門に生産する軽工業工場が次々と建てられ、人民の生活向上と一般消費財の品質改善に資する各種の商品展示会が年中盛況を呈して行われた。

紡織工業部門では千数百人が3年分、2年分、年間計画を繰り上げて遂行した。

建設部門でも首都の和盛地区に建築美学の面で一層洗練された1万世帯の住宅が建てられ、検徳地区で1年分の住宅建設課題が完了し、多くの市・郡で近代的な農村住宅が完工した。

平安北道と慈江道、両江道で膨大な水害復旧課題が完遂され、「農村文化都市」の新しい変革ぶりが広がって地方建設の新境地を開き、自活自決の尽きない力を誇示した。

科学技術発展のための核心課題、重点課題が完遂され、基幹工業と軽工業、農業をはじめとする経済の各部門で生産が増大した。人民の生活向上に切実な科学技術上の問題を解決する上で大きな進展が遂げられ、教育、保健医療、文学・芸術分野でも革新を起こすための積極的な努力が傾けられた。

わが国の女子サッカー選手をはじめスポーツ選手たちは、アジアカップ競技大会と国際サッカー連盟U—20、U—17女子ワールドカップ競技大会で連戦連勝し、重量挙げと卓球、ボクシング、テコンドーなど多くの種目でアジア覇権、世界覇権を獲得した。

このようにわが人民は、誇らしい結実をもって2024年を飾り、明確な目標を掲げて全てのことを将来を見通して発展志向的に展開することで、社会主義建設の全面的発展を促した。

年中続いた新居入り

2024年にも首都から北辺の山奥に至る国の津々浦々で年中相次いで行われた新居入りは、人民に大きな喜びを与えた。

2月23日、首都平壌では和盛地区第3段階1万世帯住宅建設の着工式が行われた。

2021年から毎年行われる平壌市5万世帯住宅建設の4番目の着工式であった。

毎年首都に間違いなく1万世帯の住宅が立ち上がっているわが国で、毎年2月には当該年度の大建設の着工を告げる発破の音が鳴り響き、4月には新居入りの喜びで全国が賑わうことが国家特有の生活、情緒となっている。

金正恩総書記は着工式に出席し、和盛地区第3段階1万世帯住宅建設の着工式を告げる発破ボタンを押した。

2024年4月16日、首都建設史に特記すべき今一つの変革のページを記しながら、和盛地区で林興通りの竣工式が行われた。

林興通りは、80余ヘクタールの敷地に1万世帯に及ぶさまざまな様式の住宅と公共・サービス建築、各種の施設が調和をなして便利なように配されている。





林興通り

主体性と民族性、近代性と芸術性がはっきり生かされた林興通りの住宅は、和盛通りの住宅とはその様相が区別されるように反復を避け、わが国固有の味わいと特色を生かして、重みがあるように建設された。

和盛地区第2段階1万世帯住宅の竣工を記念する公演が行われた。

公演舞台には人民の理想社会を打ち建てる変革の時代、偉大な金正恩時代の賛歌が響いた。

特に、総書記を指導者に戴いたわが人民の限りない誇りと栄光を格調高く謳歌した新作の歌謡『親しい父』は、竣工式場の慶祝雰囲気を一層盛り上げた。

この歌は、国内だけでなく、世界的にも大きな反響を呼んだ時代の名曲となった。

わが国家、わが人民特有の高尚な情緒が限りなく流れる首都の街に歌謡『明けるな　平壌の夜よ』のメロディーが流れる中、慶祝の花火が再び打ち上げられ、新しい街の夜景をより美しく飾った。

総書記は、めでたい4月に林興通りの新しい住宅に引っ越す全ての家庭に幸せが訪れるよう心から祈願し、温かく祝福した。

5月14日、平壌の北の関門の西浦地区に建設された前衛通りの竣工式が行われた。

前衛通りは、80階建て住宅をはじめ多様な様式の高層・



前衛通り

超高層住宅と公共建築で大建築群をなしている。

わずか1年の間にこの通りを打ち建てた青年たちの偉勲を長く伝えるために「前衛通り」と命名した。

総書記は前衛通りの建設で勤労の偉勲を立てた青年革新者たちに会い、彼らの労苦を高く評価した。

前衛通りの竣工を記念する公演が盛大に行われた。

全国各地の農村でも、年初から年末まで新居入りが行われた。

2024年10月初めまで141の市・郡に4万1600余世帯の住宅が建設された。

2022年から始まった農村文化住宅建設では、2024年11月まで全国的に1500余りの村が新たに建設され、地方の様相が根本的に変わった。

2024年12月末には検徳地区で千数百世帯が新しい住宅に引っ越しするなど、新居入りの喜びは年中全国に満ち溢れた。

『労働新聞』は、年間およそ百数十回にわたって農村住宅の新居入りニュースを報じたが、4月から6月まではほとんど毎日のように新居入りニュースを伝え、7月中旬から末までの10日間には14の村に、9月の10日間には15の村に新しい住宅が建設されて新居入りをしたと報じた。

農村住宅建設が一層本格的に進められる中、新居入り







地域の特性を生かした農村住宅

ニュースがありふれたこととなり、そのうえ新しい住宅の様式が日ごとに変わっているのも普通のこととなった。

首都と全国各地で年中続いた新居入りは、人民の理想が遠くない将来に必ず実現するということを実証している。

地方発展政策の強力な推進

2024年1月、朝鮮労働党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議が行われた。

会議では「地方発展20×10政策」を強力に推し進めるための対策が討議・決定された。

1年の間に20の市・郡に地方工業工場を建てて10年内に全国の全ての地方を発展させることを目指した「地方発展20×10政策」は、地方の長年にわたる後進性を一掃し、地方人民の宿望をかなえ、人々の認識領域に改善をもたらすための一つの壮大な革命である。

共和国の発展史において、「地方発展20×10政策」のように地方工業の全面的・均衡的・急速な上昇発展という革命的な政策が確定・明示されたのは初めてのことであった。

特に、新時代の農村革命綱領の輝かしい設計図に従って

毎年数万世帯の農村住宅の建設が全国的な規模で進められている中で、それとは別途に毎年20の市・郡に地方工業工場を建設する新しい地方発展政策を推し進めるというのは決して容易なことではない。

なすべきことは膨大で、状況は困難であるが、朝鮮労働党と政府は人民のために各方面で都市と農村、中央と地方の格差を縮め、共に発展する文明社会の建設を進め、特に地方人民の福祉を増進させ、権益を保護し、地方と農村の生活環境を改善することをそれ以上引き延ばすことも顔を背けることもできない最優先的な重大事、必ず実行すべき政治闘争課題として提示した。

地方人民に裕福かつ文明的な生活を享受させるためにいつも心を砕いてきた金正恩総書記は、すでに2021年3月の第1回市・郡党責任書記講習会で新しい地方発展期を切り開く構想を示し、苦心と苦悩でつながれた献身の道程で政策方向を定立し、全国の全ての市・郡の物質・文化生活の発展可能性を確認した上で地方工業工場を完全に一新させる革命戦略を提示した。

2024年1月に招集された党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議では、地方工業工場の建設に必要な資金と労働力、資材を保障するための党的・国家的措置を講じる問題、地方工業工場の規模と生産能力を正しく選定する問題、工場の経営に必要な技術者、技能工を先を見通して

養成する問題、原料基地造成問題など、合理的で現実可能な方案と発展志向的な方途が具体的に討議された。

総書記は、朝鮮労働党中央軍事委員会委員長命令「地方工業革命を起こすための党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議決定貫徹の闘争へ人民軍部隊を動員することについて」に親筆で署名して朝鮮人民軍総参謀長に直接手渡し、『党の「地方発展20×10政策」を強力に推し進めるために』と題する綱領的な結語を述べた。

党中央委員会第8期第19回政治局拡大会議は、地方中興の画期的な里程標を提示した会議であった。

地方工業革命の開始を告げる成川郡地方工業工場建設の着工式が、2月28日、成川郡で行われた。

総書記がこの着工式に出席して意義深い演説を行った。

総書記は、この地に生まれた人なら、首都や地方、都市や山村を問わず、どこに住んでいようとも等しく裕福かつ文明的な生活を享受すべきであり、また必ずそれを実現しようというのが新しい地方発展政策の核である、「地方発展20×10政策」実現の勝算はすでに決まっている、と確信に満ちて述べた。

総書記の演説は成川郡の境界を越えて全国を激しく揺さぶり、これに励まされた軍人建設者によって、20の市・郡の地方工業工場はわずか数カ月の間に自分の姿をはっきりと現した。

2024年8月、金正恩総書記は地方工業工場の建設場を現地で指導しながら、地方工業工場の建設と共に保健医療施設と科学技術普及拠点、穀物管理施設の建設を並行させるよう強調した。

また、地方発展事業協議会で、先進的な市・郡病院と科学技術普及拠点、穀物管理施設の建設で堅持すべき諸原則を明示し、共和国創建76周年に際して行った演説では、科学技術普及中心を多機能化された複合型文化中心として建設するようにした。

このように人民のためなら重荷の上にまた重荷を担い、限りない労苦を重ねる金正恩総書記の指導の下、全国を人民の理想郷にするための地方変革の大業を成功裏に実現しうる科学的な設計図と明確な方法論がもたらされた。

これに先立って7月15日、咸鏡南道新浦市の豊漁洞地区で行われた地方発展協議会では、海岸沿線地域の市・郡が海の経済的潜在力と資源を効果的に開発・利用することの重要性と意義、その解決のための実践的課題と方途が示された。

歴史的な「地方発展20×10政策」実現のための闘争が力強く展開されている中、海を控えた市・郡がその条件に合わせて特色のある発展が遂げられる手本をつくるために、典型的な海岸地域であり、住民数に比べて耕地面積の少ない

咸鏡南道新浦市がテストケースとして定められ、その準備活動が推進されてきた。

協議会では、新浦市浅海養殖事業所の経済的収益と効率に関する資料報告を聴取した。

また、経済生活で都市と農村の格差を縮めるという党の一貫した政策と方針は、国家的に地方の経済成長のためのあらゆる条件と可能性を責任を持って保障してこそ実現することができると強調された。

協議会では、市・郡責任幹部が当該地域の自然地理的特性と経済的潜在力を全面的に調査し、最大限効果的に利用するための研究と仕事の手配を緻密に行う問題、地域経済発展のための特恵措置が効果を表わすように法律的・制度的装置を完備する問題、市・郡で中核となる技術者や技能工の育成に力を入れる問題などが具体的に示され、必要な対策が講じられた。

年中、堅忍不抜の頑強な闘争と努力で幾多の挑戦をはねのけてきたわが人民は、2024年の成果の中で最も誇り高い実体を目にするようになった。

12月20日、「地方発展20×10政策」実行の初の実体である成川郡地方工業工場の竣工式が盛大に行われた。

金正恩総書記が竣工式に出席して重要演説を行った。

総書記は年が経つたびに20の市・郡が変わる偉大な年代は確実かつ無条件に引き継がれなければならず、可視的な

成果よりも教訓と将来を一層重視しながら前進の歩みをより大きく、より正確に踏み出さなければならないと強調し、地方発展政策実行の翌年度の建設事業を革命的に推し進めるための原則的問題と綱領的課題を示した。

12月28日には、新浦市浅海養殖事業所の竣工式が盛大に行われた。

金正恩総書記が竣工式に出席して演説を行った。

総書記は演説で、新浦市浅海養殖事業所を建設しながら得た経験に基づいて再びテストケースとして他の地域に浅海養殖事業所を建設し、海を控えたところだけでなく他の市・郡でもその地域の天然資源と有利な経済的条件を開発・活用して地方経済発展の自立性と推進力を確保するための準備を着実に行うべきだと述べた。

そして、地方が変わり興る時代に新浦市が繁盛し「富者の都市」になって、この地方の人々に幸福をもたらすことを心から祈願した。

このように2024年は、地方の同時的・均衡的な発展と全国人民の生活向上を目指す「地方発展20×10政策」を国策として策定し、その完璧な初の実体をつくり上げた意義深い年であった。



地方中興の初の実体



新浦市の浅海養殖事業所

ひたすら人民のために

全人民が強靭な愛国的闘争を繰り広げ、2024年を祖国の歴史に誇り高く記すための上昇期を切り開いていた7月末、わが国の北部国境地帯に記録的な豪雨が襲い、甚だしい被害を受けた。

特に、平安北道新義州市と義州郡一帯では、豪雨によって鴨緑江の水位が危険ラインをはるかに超え、複数の島地域で数千人の住民が浸水危険区域に孤立する重大な危機が生じた。

危機の発生直後、党と政府、軍の指導幹部が現地に急派され、朝鮮人民軍空軍ヘリコプターと海軍や国境警備隊の海上警備編隊の各種の救助艇が住民救出に迅速に投入された。



平安北道新義州市と義州郡の被害状況

10余機のヘリコプターがおよそ20余回ずつ連続して往復飛行をしながら、不利な気候条件と緊急な状況で住民を救出した。

救出された彼らは、飛行場で自分たちを待っている金正恩総書記を見て驚かざるを得なかった。

生死の岐路に立たされて絶望していた彼らは人民軍によって救出されるときでさえ、救助戦闘を指揮するために総書記が風雨の吹きすさぶ飛行場に長時間立っていたことは全然思いも寄らなかった。

党と政府は災害復旧に総力を集中して災難による損失を最小化し、悪影響を速やかに解消し、再発を防止するための適時的な対策を講じた。

中央と各級の指導幹部と建設陣が人民の生命・財産の保護を第一にして被害復旧に迅速に動員された。

当該地域の党及び政権機関は、罹災民に対する予防治療対策及び生活条件の保障に第一義的な関心を払い、食糧と医薬品、生活用品をはじめとする救済物資を最大限に保障し、彼らを慰問した。

平安北道と慈江道をはじめ一部の地域で大水と豪雨による重大な被害が連続して発生したことに関連し、復旧対策を早急に講じるための朝鮮労働党中央委員会第8期第22回政治局非常拡大会議が、7月29日から30日まで、平安北道新義州市の被害現地で行われた。

会議招集に先立って、総書記が内閣総理と党中央委員会の書記たちを帯同して浸水地域を視察した。

鴨緑江河口に位置した新義州市と義州郡だけでも、およそ4100余世帯の住宅とほぼ3000ヘクタールの農耕地をはじめ、数多くの公共建築や施設、道路や鉄道が浸水した。

政治局非常拡大会議では、集計された全国及び地域別の水害状況に関する総合資料が詳細に言及され、被害発生当初から繰り広げられた当該地域と各級機関の救済対策及び復旧活動状況に対する評価と共に、成果と欠点が分析された。

会議では、一日も早く被害を取り除くための全ての措置を強力かつ緻密に講じるための綱領的課題と方途が示された。

総書記は、政治局員などの会議参加者が、義州郡の罹災民が臨時生活をしているテントを訪ねて、彼らの生活状況を実際に自分の目で見ながら責任を強く感じ、彼らを慰労し激励しながら率直な話を聞き、復旧と関連した具体的な対策案を深く考えて政治局に提出するようにした。

7月30日に行われた第2日目の会議では、参加者たちの研究結果と意見を追加反映した決定書「平安北道と慈江道の水害を早急に復旧することについて」が全会一致で採択された。

この決定書に従い、平安北道と慈江道の被害復旧を受け持った被害復旧司令部がそれぞれ設置され、人民軍部隊と白頭山英雄青年突撃隊は新義州市と義州郡の被災地域に4400余世帯の近代的な住宅を建設する課題を与えられ、特に、平安北道は人民軍と協力して島地域の堤防を永久的かつ堅固に築くことを受け持った。

人民軍が慈江道の被害復旧戦に急派され、各道で組織された党員連隊が平安北道と慈江道内の被害の激しい市・郡に派遣され、一部が両江道の被害復旧にも動員された。

朝鮮人民軍の各級部隊と各地の党員と青年、医療従事者が水害地域へ急派され、大量の支援物資と機材が被災地域に届けられた。

8月8日、金正恩総書記は義州郡の罹災民を訪ねた。

総書記はまず、浸水した義州郡の島地域が一目に見渡される鴨緑江の川岸の丘に上がって、輪郭が現れはじめた浸水地域の実態を再びつぶさに確かめ、復旧のための重要な教示を与えた。

総書記は、豪雨が降りさえすれば「貯水池」になってしまうこの地域の恒常的な脆弱性を克服するために、水利工学部門と設計部門が協力して科学的に検討し、現実的な対策を講じるべきだと述べた。

ついで総書記は、罹災民が臨時に生活している仮設

テントを訪ね、彼らを温かく慰労した。

総書記は、党中央委員会が新義州市と義州郡の罹災民のために用意した支援物資を自身の専用列車で輸送して罹災民に伝達するようにし、慈江道と両江道内の罹災民に送る物資も党中央委員会政治局員たちが即時に現地へ出向いて手渡すよう委任した。

ついで総書記は、水害復旧に関する党と政府の立場を明らかにし、被災者を慰労する重要演説を行った。

総書記は演説で、水害地域という環境の下で最大の難問となっているのは子どもや生徒の生活と教育の問題だとし、被害復旧期間に平安北道と慈江道、両江道の罹災民家族の子どもや生徒を皆平壌に連れていき、国家が全面的に負担して、安全で便利な環境で保育と教育を受け持って提供する非常システムを稼動させようとしていると述べた。

そして、今多くの国や国際機関がわが国に人道支援を提供する意向を表明していることに謝意を表し、われわれが国家活動の全ての領域と工程において第一としているのは、人民に対する固い信頼と徹底的に自力による問題解決方式である、今回の被害復旧で党中央と政府が依拠しているのは、一にも、二にも、十にも、わが人民の愛国的熱意と勇気、わが国家の潜在力である、と述べた。

総書記は、われわれはこれまでと同様、自力への確信

を何よりも大事にし、人民の力と知恵を引き出して全ての問題を解決していくだろう、今後も引き続きこのように、わが国家の力を不断に増大・強化しながら自分の力と努力をもって自分の前途を切り開いていくだろう、と述べた。

そして、被害復旧に国家的な総力が集中され、計画した事業が共和国政府の統一的かつ強力な指揮の下で円滑に推進されている以上、基本的に、この原則に一貫して従っていくだろう、愛するわが人民とわれわれの未来のために、われわれが自ら決定し担った時代的課題、歴史的課題を必ず完遂するために、党と政府はいかなる挑戦にも進んで立ち向かい、必ず忠実な奉仕と立派な結果をもって人民の信頼に報いるだろう、と述べた。

こうして、1万3000名の罹災民が党中央の特別客として平壌に招かれ、住宅が完工するまで首都平壌の4・25旅館であらゆるサービスを受けながら、何の不自由もない生活を営む夢のような現実が繰り広げられるようになった。

8月15日、各地域の罹災民は平壌の4・25旅館に到着した。

総書記が自ら宿所に出向いて罹災民を温かく迎え、歓迎の辞を述べた。

総書記はまず、党と政府の措置を信頼しそれに従ってくれた各地域の罹災民に感謝を表し、平壌で対面するようになった喜びを披歴した。

そして、国境沿線と北部内陸の多くの被災地域で不便な生活をしていた高齢者と幼児の母親、戦傷栄誉軍人と子どものために、生活条件のよい旅館を提供することができて幸いだとし、ここ4・25旅館と閲兵訓練基地は誠意を尽くして皆さんを迎え、サービスする準備ができていると述べた。

また、ここに席を共にした高齢者と女性をはじめ水害地域から来られた全ての人が、愛する母なる祖国の首都で気楽に生活しながら楽しく祝日を過ごし、滞在期間、印象に残る有意義な時間を送るよう願う、と言って歓迎の辞を終えた。

そして、総書記は子どもたちの食事室に足を運んだ。

総書記は、甘えるように取りすがる子どもたちを温かく懐に抱き、皆が平壌滞在の間、何の心配もせずに思う存分恩恵を享受しながら、健康な体で楽しい日々を過ごすよう再び祈願した。

総書記は8月16日、再び4・25旅館に出向き、水害地域から来た児童・生徒のための教育準備過程を確かめた。

朝鮮労働党中央委員会の手配により、4・25旅館には水害地域から来た児童・生徒のための臨時教室がつくられ、平壌市内の小・中学校、就学前教育機関の教員、教養員を網羅する機動教育隊が組織され、新学期の授業準備が本格的に推進されていた。

4・25旅館に到着した総書記は、水害地域の児童・生徒のための新学期授業準備の一環として行われた小学班のモデル授業を参観した。

総書記は、教育設備と教具・校具の具備状況を具体的に確かめ、児童・生徒が利用することになる学用品も見、旅館内に臨時に設けた初級班や高級班の教室も見て回った。

この日、党と政府の特別措置により、首都に来て勉強するようになった水害地域の幼稚園の子どもや児童・生徒に、金正恩総書記から贈られた制服と学用品、かばん、靴などが伝達された。

わずか数日前に自然の大災厄から救出されたばかりの人々であった。

あまりにも思いがけなく災難に遭い、荒れ狂う大水を目前にしてどうすればよいものか途方に暮れていた彼らは、ヘリコプターが飛んでくると、自分たちに救いの手が差し伸べられていることを知った。

しかし、その危急のとき、金正恩総書記が自ら救助戦闘を組織しておられるとは、夢にも思わなかった。

総書記は当時、およそ2時間にわたってゴムボートに乗って









被害地域に立ち上がった住宅

危険な浸水地域を視察した。

水害の跡には残るものがなく、たくさんの人命被害が出るのが通例となっているが、当時、浸水地域ではたった一人の死傷者も出なかったばかりか、かえって人口が増えるという思いも寄らぬことさえ起きた。

被災地域の子どもと生徒、高齢者、病弱者、戦傷栄誉軍人、幼児の母親が首都平壌で国家的な保護と恩恵を受け、陽徳温泉文化休養地や松涛園国際少年団野営所などで社会主義の文明を思う存分享受し、楽しい日々を送る伝説のような話が生まれるようになった。

それぱかりではなかった。

被害復旧が単に自然災害による被害を取り除く問題ではなく、党の遠大な新時代の農村革命綱領を実現する重要な事業として進められて、被災地域は永遠に水害という言葉を知らない「農村文化都市」に様変わりした。

4. 先進文明創造での進展

2024年に教育と科学、保健医療と文学・芸術、スポーツをはじめとする文化分野においても確実な成果がもたらされた。

教育部門への投資を戦略的価値の一番高い投資と見なした党と国家の教育重視政策によって、全国の数多くの学校と分校をはじめ普通教育機関が新築または改造・近代化され、科学技術発展のための核心課題、重点課題が完遂され、経済部門の生産増大と人民の生活向上に切実な科学技術上の問題を解決する上で大きな進展が遂げられた。

わが国のスポーツ選手たちは、多くの国際競技でアジア覇権、世界覇権を獲得し、共和国旗を高く翻して全国の人民に大きな勇気と鼓舞を与えた。

繁栄のいしずえ

2024年4月1日、党と国家の大きな関心と期待の下に全国の全ての教育機関で始業式が有意義に行われた。

2024年の新学年度から普通教育部門では、数十の学校で第2回全般的12年制義務教育綱領による選択科目制教育を試験的に実施し、技術高級中学校（技術班）を増設して運営するようになった。

これは、党中央委員会第8期第9回総会で教育部門に提示された、国の教育を先進国水準に引き上げるための活動の一環であった。

学校で原理教育に力を入れ、学んだ知識を実践に活用できる思惟能力を育てる活動をキーポイントとしてとらえていくようにし、優れた素質を持った児童・生徒の才能を積極的に啓発させながらも一般教育を強化する原則に立って、国の教育が全ての児童・生徒を多面的な知識と高い文化的素養を身に付けた有能な人材に育てる方向へしっかりと志向されるようにした。

高等教育部門では、境界科学と先端科学分野を開拓し、欠けていたり立ち後れた工程・技術を先進レベルで開発・更新できる一等級高い人材を質的に育てられるように博士院の教育水準を高めるための活動が強力に準備・開始された。

これと共に、教育部門の物質的・技術的土台を強化するための活動に実質的な変化がもたらされた。

全国的に教育条件と環境を一新するための活動が力強く繰り広げられる中、著しい成果が次々と収められた。

2024年11月末まで全国的に340余の学校と780余の分校、150余の幼稚園がモデル水準で新築または改造・近代化され、多機能化された教室は計画より2000余もさらに増え、180の分校にネットワークが構築されて、教育の質を一段階引き上げることができるようになった。

これは、全ての人が教育の発展のために常に苦心し、一貫した努力を傾注するとともに、全党的、全国家的、全社会的に教育を重視し、積極的に支援する気風をわが国家特有の国風として強化・発展させるという党の意図を確実に実現しようとする全国の幹部と勤労者の高揚した愛国的熱意がもたらした高貴な成果であった。

朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会では、全国の児童・生徒・学生に国家の負担で制服と学用品を供給することを党と国家の一貫した政策として規定し、新しい形態の制服とかばんを全ての児童・生徒・学生にもれなく供給するという課題を提示し、これを実行するための重大措置を講じた。

それによって2023年6月、平安北道の学生制服工場の竣工式が行われた時から1年余りの間に咸鏡北道と羅先市、南浦市、黄海北道、慈江道、両江道、黄海南道、咸鏡南道に学生制服工場が次々と建設された。

また、江界学生製靴工場、平城学生製靴工場、沙里院学生製靴工場、恵山学生製靴工場が竣工したことをはじめ、党中央委員会第8期第4回総会以後、各道には学生用の靴を専門に生産する工場が建設された。

学生用の制服とかばん、靴を生産する国家的なシステムが稼動するとともに、都市と農村、山村、島村の全ての児童・生徒にもれなく供給するための社会主義的施策を実行できる制度的保証ももたらされた。

以前には商業網を通じて供給されていたが、2024年からはそれぞれ名札の付いた制服とかばん、靴を包装して学校で供給するシステムが確立された。

特に、供給する前に各学校に設けられた試着室で身に付けさせてみ、洋裁専門家が現地に出向いて欠陥を是正することを伴わせて、みんなが体にぴったり合い、見栄えのする制服が着られるように細心な措置が講じられた。

2024年には科学技術の発展においても著しい成果が成し遂げられた。

先進科学技術及び製品展示会―2024、朝ロIT製品展示会―2024、全国青年科学技術成果展示会をはじめとする

製品展示会と部門別科学技術展示会は、飛躍的に発展する国の科学技術力をあまねく誇示した。

1700余の科学技術成果資料が出品された全国青年科学技術成果展示会は、国の経済発展と人民の生活向上に実質的に寄与するために思索と探究を続ける青年科学者・研究者の眼識を高め、自信を倍加させる契機となった。

第37回全国科学技術祭典で第1位を占めた新しい製鋼技術は、人々の注目を引いた。

この技術の開発によって、多くの資材と電力を節約し、各種の鋼材と合金鋼を思い通りに生産できるようになった。

また、新しく製作された高レベルの太陽輻射度測定装置をはじめ、第37回全国科学技術祭典に出品された科学技術成果は、国の興隆を支える基盤となった。

この他にも、保健医療部門の物質的・技術的土台を強化するための活動の一環として、平壌総合病院の建設が完工段階に入り、全国各地に数多くの標準薬局が建てられた。

この他にも、文学芸術部門では革命映画『72時間』と歌『親しい父』『われらは朝鮮人』など時代の名作が創作されてわが人民の闘争気勢を一層盛り上げた。

強靱な闘志をもって

2024年、わが国のスポーツ選手たちは多くの国際競技で優勝して共和国旗を翻し、全国に力強い活力と勇気を与えた。

スポーツ選手たちは、各国際競技で20余の優勝カップと210余の金メダルを含む360余のメダルを獲得し、国内競技では40余の共和国新記録を創造した。

女子サッカー選手たちは、2024年アジアサッカー連盟U—20、U—17女子アジアカップ競技大会や国際サッカー連盟U—20、U—17女子ワールドカップ競技大会で連戦快勝し、1年間に四つの優勝カップを獲得した。

各試合で発揮された選手たちの強靱な精神力と高い肉体的・技術的能力は、世界の数多くのサッカー専門家や愛好家、観衆の絶賛を受け、アジアはもちろん、世界の覇権を握った朝鮮女子サッカーの強大な底力と発展展望をはっきりと示した。

重量挙げと卓球、ボクシング、テコンドーなどさまざまな種目でもアジア覇権、世界覇権を握った。

重量挙げ選手たちは、2024年国際重量挙げ連盟世界選手権大会、世界カップ競技大会、2024年アジア重量挙げ選手権大会で、79の金メダルを含む116のメダルを獲得した。

現在、国際重量挙げ連盟に朝鮮女子選手の名で登録された世界記録は14を数え、国及び地域別世界記録保持の順位において1位を占めており、男子選手は三つの世界記録を保持している。

それゆえ世界のメディアは、2024年国際重量挙げ連盟世界選手権大会で世界新記録を次々と破り、どのチームにもない実力を誇示した朝鮮選手の成果について口を極めて称え、朝鮮が世界重量挙げ界において第一の強国に浮上したと評した。

キム・グムヨン選手は、2024年アジア卓球選手権大会で世界的な強豪たちを破って栄誉の優勝を獲得し、第33回オリンピック競技大会卓球ミックス・ダブルスではキム・グムヨン、リ・ジョンシク選手が第2位を占めた。

第10回アジアテコンドー選手権大会に参加したわが国の選手たちは、頑強な忍耐力と高い技術を発揮して15の優勝カップと76の金メダルを含む100余のメダルを獲得する誇るべき成果を収めた。

また、ウズベキスタンで行われた第9回国際武道競技大会「世界カップテコンドー競技大会—2024」成人クラス競技でも、今一度世界のテコンドー界を揺さぶり、一つの優勝カップと10の金メダルを含む19のメダルを獲得した。

一方、共和国選手権大会をはじめとする国内競技が活発に催され、その過程で種目別スポーツ技術の発展と選手の後進育成において著しい前進が成し遂げられた。

新しい目標を達成するために訓練に励んできたスポーツ選手たちは、陸上競技や重量挙げ、射撃などの種目で40余の共和国新記録を創造した。





2024年国際サッカー連盟U—17、U—20女子ワールドカップ
競技大会で優勝した朝鮮女子サッカー選手たち

5. 圧倒的な抑止力

2024年は強力な自衛国防を建設する上で画期的な成果が達成された年であった。

わが党と共和国政府は、極度に悪化している地域の安全環境に対処して断固たる強硬対応態勢を堅持しつつ、圧倒的な戦力強化で平和と安定をしっかり守り、われわれの新しい戦略的抑止力の実体を誇示した。

また、先端戦略・戦術兵器システム開発の連続的な成功によって、国防分野において飛躍的な成果を収めた。

国家防衛力の強力な実体

2024年に共和国武力が敵対勢力のいかなる挑発策動にも備えられるように政治的・軍事的強勢、戦力の増大を加速化する上で実質的かつ根本的な改善がもたらされた。

自衛的国防力強化の新たな全盛期を力強く切り開くための全軍の高揚した闘争気勢が日増しに高まる中、人民軍の実戦能力と動員態勢はより高い水準に向上した。

まず、人民軍の砲兵戦闘準備で一大変革が起こった。

2024年3月と10月に行われた朝鮮人民軍大連合部隊の砲撃訓練、西部地区砲兵部隊の一斉射撃訓練、現役指揮官進出を前にした呉振宇砲兵総合軍官学校卒業生の砲実弾射撃訓練などは共和国砲兵武力の質的水準を遺憾なく示した。

朝鮮人民軍大連合部隊管下砲兵部隊の火力打撃能力判定と、人民軍の新世代の核心打撃手段の一つである600ミリ超大型ロケット砲兵区分隊の不意の機動と一斉射撃訓練を通じて、全ての砲兵区分隊が実戦に進入する時点で無慈悲で迅速な打撃で主導権を握ることのできる経常的な戦闘動員準備態勢と、超大型ロケット砲兵器システムの威力と実戦能力が今一度実証された。

特に、超大型ロケット砲中隊の一斉射撃の後に行われた

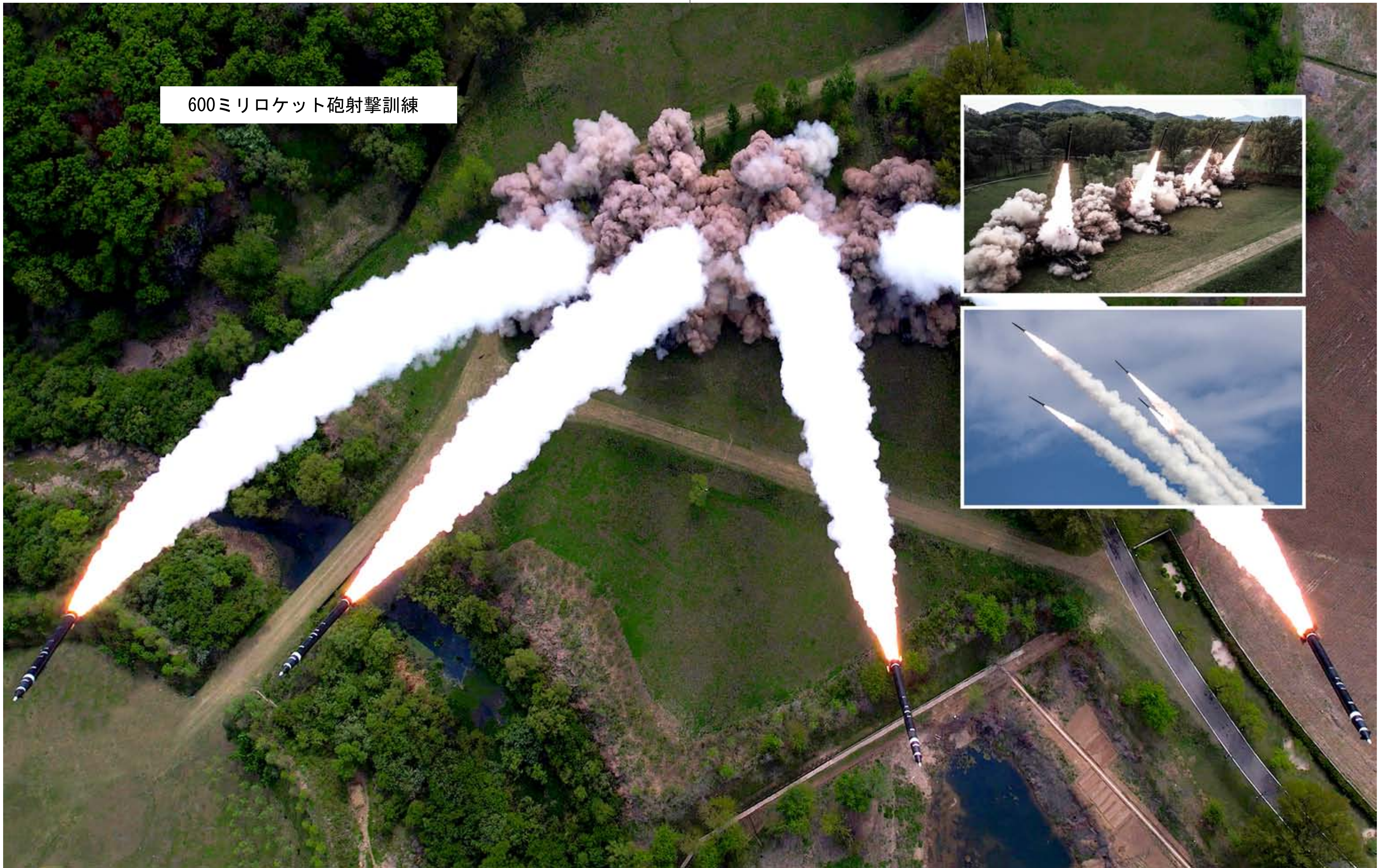
超大型ロケット砲弾による目標上空設定高度での空中爆発模擬実験は、圧倒的な軍事力を抑止力にして武力衝突と戦争の可能性を完全に除去し、国家の平和と安定、主権をしっかり守る朝鮮式超大型ロケット砲兵器システムの確固たる臨戦態勢を余すところなく示した。

これと共に、「試射なしの命中」のスローガンを高く掲げ、作戦戦闘地帯の実情に合わせて迅速な機動戦、奇襲戦で敵を撃滅・掃討することに重点を置いて行われた呉振宇砲兵総合軍官学校の卒業生の砲実弾射撃訓練は、砲兵教育の質的水準の誇示となった。

4月、600ミリ超大型ロケット砲兵区分隊が参加して行われた初の核反撃想定総合戦術訓練は、いつにもまして挑発的かつ侵略的な性格を帯びて強行されている敵の軍事的対決騒ぎに送る警告信号であった。

4月12日から韓国の群山空軍基地に100余機の各種の軍用機を引き入れて「連合編隊群総合訓練」を繰り広げた米国と韓国軍部の好戦分子らは、以前の演習について「防御」だの、「抑止」だの、何だのと言っていたベールまで完全に脱ぎ捨てて、共和国への「進撃」を公然と云々し、1日平均100回の発進を強行して極度の戦争熱を鼓吹した。

わが国家の周辺地域に頻繁に核戦略資産を搬入し、追随勢力を糾合して戦争演習を行っていることにも飽き足らず、


600ミリロケット砲射撃訓練

われわれを正照準したものであると公然と宣伝して強行された米国の軍事的挑発騒ぎは4月末まで続いた。

4月18日には、米国と韓国の特殊部隊が任意の地域に迅速に浸透して「標的を除去」することを目的とした「連合空中浸透訓練」なるものを繰り広げた。

2024年1月から4月までの期間にも、米国とその手先らは2023年の同期に比べて約2倍も増えた140余回の反共和国侵略戦争演習を強行した。

共和国を「力」で圧殺しようとする敵対勢力の絶え間ない軍事的挑発によって、国家の安全環境が甚だしく脅かされている看過できない現実は、われわれをして国の安全と地域の平和のために情勢を主動的に統制できる最強の軍事力をより圧倒的に、より加速的に備蓄していくことを緊切に求めていた。

核反撃想定総合戦術訓練は、国家核武力の迅速反撃能力を実質的に強化し、戦争抑止力を向上させる上で重要な役割を果たすことになる超大型ロケット砲兵部隊を、国家核兵器総合管理システムである「核の引き金」システム内で運用する方式で行われた。

国家最大核危機事態警報システムの発令時、各部隊を核反撃態勢へ移行させる手順と工程に熟達させるための実動訓練と核反撃指揮システム稼動演習、核反撃任務が課された区分隊を任務遂行工程と秩序に熟練させ、核模

擬戦闘部を搭載した超大型ロケット砲弾を射撃させる順で行われた。

超大型ロケット砲は、並外れて強い威力と完璧な実戦態勢を力強く誇示し、射程352キロの島の標的を命中した。

訓練を通じて、全ての核武力に対する指揮及び管理統制運用システムの信頼性を多角的に再点検し、超大型ロケット砲兵部隊を迅速に核反撃へ移行させるための行動秩序と戦闘法を熟達した。

5月30日、わが国家の主権と安全を保障し、敵が共和国に反対する軍事力の使用を企図する際には、先制攻撃も辞さないというわれわれの対応意志を明白に示すための超大型ロケット砲兵区分隊の威力示威射撃が行われた。

火力区分隊の一斉射撃は、国家核兵器総合管理システムの構成系統である統合火力指揮システムを稼動させて行われた。

朝鮮人民軍の西部国境の重要火力襲撃任務を受け持っている砲兵連合部隊管下第331赤旗砲兵連隊第3大隊が行った一斉射撃は、射程365キロの島の標的を命中し、課された威力示威射撃任務を立派に遂行した。

この日の威力示威射撃は、国家主権と領土保全守護のための軍事的報復力を稼動させることが、憲法によって承認された共和国武装力の義務及び使命であり、われわれの主権を侵奪しようとする敵の政治的・軍事的蠢動が狂乱的に

強行されている情勢の下で、敵に、われわれに手出しをするならどんな結果に直面するかをはっきりと示した契機となった。

人民軍の高い戦闘力と質的水準を実証したのは、特殊作戦部隊の実動訓練であった。

2024年3月、9月、10月に朝鮮人民軍の各級重要作戦訓練基地で行われた特殊作戦区分隊と空挺兵の実動訓練は、国家の安全と人民の安泰を守る崇高な使命に限りなく忠実であり、戦闘力強化に向けた訓練の道に惜しみなく汗を流し、無敵の力を強く育んできた戦闘員の実戦能力を遺憾なく誇示した契機となった。

不意の戦時状況の中で下達される任意の作戦的企図に従って動員できる態勢を点検し、それに応じたさまざまな戦闘行動法に適応されている実戦能力を判定するための訓練を通じて、戦争遂行の直接の担当者であり、国家防衛の主な勢力である人民軍が各方面にわたって戦争に徹底的に準備されているばかりか、万端の戦闘動員態勢を堅持していることが確認された。

2024年3月、朝鮮人民軍戦車兵大連合部隊間の対抗訓練競技でも戦車兵は、さまざまな最悪の戦闘状況の競技走路を速いスピードで走りながら、強力な打撃で目標を一撃の下に掃滅し、高い機動力で堅固な防御線を克服して戦車の確実な性能と経常的戦闘動員準備態勢を力強く示した。

戦車兵対抗競技では、初めてその驚くべき戦闘的性能を誇示しながら姿を現した新型主力戦車が極めて優れた打撃力と機動力を立派に見せた。

11月に行われた朝鮮人民軍第4回大隊長・大隊政治指導員大会は、世界最大のホット・スポットとなっている朝鮮半島の情勢を史上最悪の状態に追い込んだ米国と韓国をはじめとする敵対勢力の反共和国軍事対決狂態の脅威的な性格を暴露し、革命の要求、現情勢の要求に照らして戦争準備の完成に総力を集中するという戦闘的スローガンを共和国武力の各級に提示する意義深い大会合であった。

11月15日、金正恩総書記は朝鮮人民軍第4回大隊長・大隊政治指導員大会に出席し、『現情勢と共和国武力大隊長・大隊政治指導員の任務について』と題する歴史的な演説を行った。

人民軍は、2024年に国家防衛戦だけではなく、人民防衛戦においても自分の栄誉をとどろかせた。

特に7月末、水害地域の罹災民を救出する上で、朝鮮人民軍空軍ヘリコプター部隊の将兵が発揮した偉勲は、歴史に記されるべき特出した武勲であった。

総書記は8月2日、罹災民の救出で特出した武勲を立てた朝鮮人民軍空軍ヘリコプター部隊を祝賀訪問した。

栄誉の朝鮮人民軍空軍軍旗と部隊軍旗に戦闘的敬意を表した総書記は、情熱的な激励の演説を行った。



朝鮮人民軍戦車兵大連合部隊間の対抗訓練競技

総書記は、ヘリコプター部隊長に朝鮮民主主義人民共和国英雄称号と共に金星メダル及び国旗勲章第1級を直接授与し、自ら部隊軍旗に自由独立勲章第1級を付け、人民防衛戦で赫々たる偉勲を立てた飛行士たちと記念写真を撮った。

国家興隆の絶対的保証である人民軍の軍事力の強化は、全人民に強国の公民という胆力と信念を抱かせ、国家興隆を目指した彼らの闘争を鼓舞激励し、国家の安全を武力でしっかり支えた。

相次ぐ先端兵器システムの開発

国防力を強化するためのわが国の闘争において輝かしい位置を占めるのは、先端戦略・戦術兵器システム開発の相次ぐ成功により、国防分野で飛躍的な成果を成し遂げたことである。

国家の核抑止力の作用空間を多角的に拡大・強化するという戦略武力建設路線に従って、わが海軍の核武装化を加速化するための試射が行われた。

2024年1月28日、新たに開発した潜水艦発射戦略巡航ミサイル「プルファサル（火矢）—3—31」型の試射が行われ、次いで新型地対艦ミサイル「パダスリ（ミサゴ）—6」型の検収射撃試験が行われた。

成功裏に行われたこれらの試射は、海軍武力の急速な発展ぶりをはっきりと示した。

2024年3月19日に行われた新型中・長距離極超音速ミサイル用固形燃料エンジンの地上噴出試験の成功に



戦略巡航ミサイル
「プルファサル—3—31」型の試射

地対艦ミサイル
「パダスリ—6」型の検収射撃試験



よって、このミサイルシステム開発完成の日程表が確定され、4月2日、新しく開発された極超音速滑空飛行戦闘部を装着した新型中・長距離固形弾道ミサイル「火星砲—16ナ」型の初の試射を成功裏に行うことによって、共和国武力は相異なる射程の全ての戦術・作戦・戦略級のミサイルの固形燃料化、弾頭操縦化、核兵器化を完全無欠に実現した。

この他にも、操縦ロケット砲弾の試射、新しい誘導技術を導入した戦術弾道ミサイルの試射と各種の無人機の性能試験をはじめとするさまざまな兵器システムの相次ぐ成功は、国家防衛力の尽きない発展ぶりを力強く示した。

特に、2024年10月31日に行われた最終完結版の新型大陸間弾道ミサイル「火星砲—19」型の試射での成功は、共和国戦略武力の絶対的優勢を永久化する上で画期的な里程標となった。

8月4日、新型戦術弾道ミサイル兵器システムを人民軍に引き渡す記念式が行われた。

総書記が記念式で演説を行った。

総書記は、建国以来、創軍以来初めての威嚇的な壮観が示唆している重大な政治的・軍事的意義と、わが国家が直面した軍事的安全環境の重大な変化、そして米国とその手先どもの日増しに凶暴になる軍事対決企図

に対する厳正な分析に基づいて共和国武力の底知れない強勢と、それをしっかり後押しする自立的防衛産業のたゆみない進歩のための諸課題を提示した。

そして、新型戦術弾道ミサイルを国境第一線部隊に装備させるという朝鮮労働党中央軍事委員会委員長命令書を朝鮮人民軍総参謀長と前線大連合部隊長に下達し、新しく組織されたミサイル兵部隊の軍旗と軍旗証書を当該部隊の部隊長、政治委員、参謀長に自ら授与した。

2024年11月、平壌で盛大に行われた武力装備展示会「国防発展—2024」は、全国の人民に自己の力に対する自負を倍加させ、国家の全面的興隆を目指した人民の英雄的進軍を激励する意義深い契機となった。

展示会には、近代性と先進性並びに打撃の精度と威力においてもう一度更新・発展し、連続的な新種の開発によって世界の耳目を集めた戦略及び戦術兵器を主として、国防科学技術集団の最新創造物が集結された。

総書記が開幕行事に出席して記念演説を行った。

総書記は、今回の展示会が持つ実践的重みと政治的・軍事的意義を倍増させるのは、米国とその同盟勢力の悪辣な対決姿勢と冒険的な軍事的行為が最高水準を超えた2024年に、自衛権行使の強対強、正面勝負をもって対応し獲得した国防発展の結実であると強調した。



中・長距離固形弾道ミサイル「火星砲ー16ナ」型の試射

このように2024年は、金正恩総書記の指導の下、わが国の国防工業が国家の地位をしっかり守る戦略的なとりでとして一層強化され、人民軍が人民を最も誇らしく、最も頼もしく守る最精鋭革命強兵により強化・発展してきた年であった。

6. 新たな転機を迎えた対外関係

2024年に朝鮮民主主義人民共和国は、厳しい地域情勢と流動的な国際関係の構図変化に機敏かつ巧みに対応しつつ、原則的な対外政策的立場と活動方向をしっかり堅持することによって、正義の多極世界建設を力強く牽引する代表的かつ強力な自主勢力としての揺るぎない国際的地位を占めた。

朝ロ関係が包括的戦略パートナーシップにしっかりと位置づけられて強固になり、朝中関係の友好的な伝統も受け継がれた。

世界の耳目を集めた朝ロ関係

朝鮮とロシア間の歴史の長い友好・協力関係は、2024年に至って、金正恩総書記とロシア連邦のウラジーミル・V・プーチン大統領の深い関心の下で新しい全盛期を迎えた。

総書記が2回にわたってロシア連邦を親善訪問し、プーチン大統領と貴重かつ満足な合意を見たのは、朝ロ友好・協力関係を新時代の要請に即して全面的かつ強力に拡大・発展させることのできる立派な里程標となった。

朝ロ両国の国家安全と発展利益を侵奪しようとする敵対勢力の悪辣な威嚇と強権を粉砕するための闘争で、戦友の情によって深まる朝ロ間の戦闘的な絆は、日を追ってその不敗さと威力をはっきりと示している。

2024年6月18日、朝鮮労働党中央委員会機関紙『労働新聞』に掲載されたプーチン大統領の談話『ロシアと朝鮮民主主義人民共和国:年代を継いで発展する友好と協力の伝統』は、自己の偉業の正当性と勝利を確信しながらしっかり手をとって進む朝ロ両国人

民の友好団結はいつも不敗であることを今一度はっきり示した。

2024年6月、総書記の招請により、プーチン大統領が朝鮮民主主義人民共和国を国家訪問した。

プーチン大統領の訪朝は、朝ロ人民の友好・団結史に輝かしい一ページを記し、両国間の善隣協力関係の強化・発展に新しい活力を与えた。

2024年6月18日、金正恩総書記はプーチン大統領と感激的な対面をした。

金正恩総書記とプーチン大統領は、2023年9月のボストーチヌイ宇宙発射場での対面についで、270余日ぶりに平壌で再会した喜びを分かち合った。

6月19日、ロシア連邦大統領を歓迎する儀式が金日成広場で挙行された。

儀仗隊の分列行進と、ロシア連邦の国旗を象徴する三色の煙を噴き出しながら広場の上空を通過する朝鮮人民軍の空軍飛行隊、歓迎群衆の熱烈な祝賀によって、金日成広場は歓喜の花の波、踊りの海と化した。

プーチン大統領は、金正恩総書記が今回の平壌訪問に深い関心を払い、誠意を尽くして歓待してくれていることに心から謝意を表した。

この日、金正恩総書記とプーチン大統領の会談が行われた。

朝ロ両首脳は、2023年9月の会見での合意を全面的に履行するための実践行動措置を引き続き拡大し、多面的な二国間交流と協力を一層活性化して相互信頼を増進させるための展望計画について虚心坦懐に討議した。

会談では、当時、世界政治舞台で起きている重大な変化と互いの関心事となる国際及び地域問題について幅広く、深みのある意見交換を行い、見解の一致を見た。また、朝ロ両国人民の福祉を図り、核心利益を守るための戦略的・戦術的協同をより一層深化させるための重要問題が討議された。

全員会談について、金正恩総書記とプーチン大統領の単独会談が行われた。

およそ2時間にわたって行われた会談で両首脳は、両国関係を包括的戦略パートナーシップに引き上げ、全面的に拡大する問題を討議して完璧な見解の一致を見、地域と世界の平和、国際正義を守る上で提起される重要問題と当面の協力事項に関して満足な合意を見た。

会談後、朝鮮民主主義人民共和国とロシア連邦との間に平等と主権尊重、善隣と互恵に基づいて包括的戦略パートナーシップを樹立することに関する国家間の条約が調印された。

金正恩総書記とプーチン大統領は「朝鮮民主主義人民共和国とロシア連邦間の包括的戦略パートナーシップに関する条約」に署名した。

23カ条からなる条約の序文には、朝鮮民主主義人民共和国とロシア連邦は歴史的に形成された朝ロ友好と協力の伝統を保持し、未来志向的な新時代の国家間関係を構築しようとする共通の志向と念願から出発して両国人民の福祉を図りつつ、双方の包括的戦略パートナーシップを発展させることが両国人民の根本的な利益に合致し、平和と地域及び世界の安全と安定の保障に寄与することを確信しつつ、国連憲章の目的と原則、そしてその他の公認された国際法の原則と規範に忠実であろうことを確認しつつ、覇権主義的な企図と一極世界の秩序を強要しようとする策動から国際正義を守り、国家間の誠実な協力、相互利益の尊重、国際問題の集団的な解決、文化及び文明の多様性、国際関係における国際法の優位に基づく多極化された体系を樹立し、共通の努力をもって人類の存在を脅かすいかなる挑戦にも対処していこうとする志向を確認しつつ、同志的かつ友好的な両国関係を強固なものにし、各分野での協力を拡大・強化することによって、朝ロ関係を地域と世界の平和と繁栄を促す強固な水準へ引き上げることを志向しつつ、条約に合意すると指摘されている。



ロシア連邦大統領を歓迎する儀式

歴史的な調印式について、プーチン大統領が金正恩総書記に贈った乗用車を両首脳が代わる代わる運転しながら迎賓館区域の美しい構内を走った。

朝鮮労働党中央委員会、朝鮮民主主義人民共和国国務委員会、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は、長い歴史的伝統を有している朝ロ両国間の善隣友好関係を新時代の要請に即して包括的戦略パートナーシップ、不抜の同盟関係に昇華・発展させ、朝ロ友好の新たなページを開く上で大きな功績を積み上げたプーチン大統領に、朝鮮民主主義人民共和国の最高勲章である金日成勲章を授与することを決定した。

金正恩総書記がプーチン大統領に勲章授与に関する共同決定を伝達し、直接勲章を授与した。

6月19日、プーチン大統領のための盛大な歓迎公演が平壌体育館で行われた。

金正恩総書記とプーチン大統領が共に公演を観た。

総合軍楽礼式から始まった公演の舞台には、歴史のあらゆる挑戦を乗り越え、正義と真理を守り抜くための各年代に強く発揮された朝鮮とロシア両国人民の革命的気概と崇高な愛国主義精神、民族的情緒を盛り込んだ演目が上がった。

朝ロ親善団結史に最も輝かしいページを記したプーチン大統領の訪朝は、強大な国家建設の目標を掲げて進む

朝鮮とロシア両国の進歩と発展に新たな活力と強力な原動力をもたらした重要な契機となった。

一方、朝鮮民主主義人民共和国政府とロシア連邦政府間の豆満江国境自動車橋の建設に関する協定と保健医療、医学教育及び科学分野における協力に関する協定が調印された。

その後もロシア連邦の国防相を団長とするロシア連邦軍事代表団と、天然資源環境相を団長とするロシア連邦政府代表団の朝鮮訪問（11月～12月）、朝鮮民主主義人民共和国外相のロシア訪問（10月～11月）など、高位級代表団の交流、特に、朝ロ間の包括的戦略パートナーシップに関する条約の発効（12月）によって、政治、経済、軍事などの各分野を包括する朝ロ関係では急速な拡大・発展が遂げられるようになった。

世界の主要メディアは「今回の条約によって東北アジアの戦略的均衡が劇的に変化する可能性がある」「朝ロ首脳会談は、東北アジア地域と世界の政治地形の変化に影響を及ぼすだろう」と評した。



ロシア連邦軍事代表団を歓迎する慶祝公演

「朝中友好の年」を契機にして

2024年は、朝鮮と中国の外交関係が樹立されてから75周年になる年である。これを契機に、朝中両国は2024年を「朝中友好の年」として記念することにした。

そうして、中華人民共和国党・政府代表団が平壌を訪問して「朝中友好の年」の開幕式に参加した。

金正恩総書記は4月13日、中華人民共和国党・政府代表団と会見し、「朝中友好の年」を契機に両党、両国の貴重な財産である友好・協力関係をより活力ある絆に昇華・発展させるための多面的な交流と協力を拡大・強化することと、互いの関心事となる重要問題について虚心坦懐に論議した。

中国党・政府代表団の平壌訪問は、朝中友好の不抜さを誇示し、伝統的な両国友好・協力関係を時代の要請に即してより一層強化・発展させていく上で極めて重大な意義があった。

長い歴史的伝統を持つ朝中友好を世紀と年代を継いで発展させるのは、朝鮮労働党と政府の確固不動の方針である。

平壌で開かれた「朝中友好の年」の開幕式に参加した中国中央民族楽団の特別コンサートが4月13日、東平壌大劇場で行われた。

金正恩総書記が特別コンサートを観覧した。

大規模の民族管弦楽団と国内の唯一の専門民族合唱団を有している国家級芸術団である中国中央民族楽団は、長い歴史を持っている。

特別コンサートの舞台には、民族管弦楽『国風』、声楽と器楽『初心を忘れまじ』、民族管弦楽と合唱『私の祖国』をはじめ中国特色の社会主義現代化国家建設と民族復興偉業を推し進めていく中国人民の闘いと愛国主義精神を反映した多彩な演目が上がった。

中華民族の伝統文化を見せる高音二胡と器楽『梁山伯と祝英台』、琵琶協奏曲『福が天のごとく長い』などは、独特な音色と演奏技法によって観客に深い印象を残した。

出演者は、朝鮮歌謡『私は平壌を愛する』『豊漁歌』を感銘深く歌って観客の絶賛を博した。

合唱『朝中友好は永遠なり』が特別コンサートの終わりを有意義に飾った。

金正恩総書記名義の花籠が出演者に伝達された。

金正恩総書記は、自ら舞台に上がって主要芸能人

に会い、特色ある公演で日ごとに開花する朝中友好を格調高く謳歌した出演者を温かく祝い、彼らと共に意義深い記念写真を撮った。

＊　＊　＊

社会主義建設の新たな隆盛期の到来と、首都と地方が共に変わり興る全面的発展、全面的興隆の重大な変化を目の前の現実として肌で感じさせた2024年の成果は、わが人民が連綿と達成する新しい勝利を支える鼓舞的な礎石となる。

わが人民は、朝鮮式社会主義の必勝不敗さと洋々たる前途に対する信念と楽観を一層固くし、より大きな勝利を目指して前進と発展の歩みを力強く踏み出すことを熱望している。

2025年度の党・国家活動の発展方向と方略を策定する朝鮮労働党中央委員会第8期第11回拡大総会は、5カ年計画を成功裏に完結し、次の段階の発展道程に進入するための準備工程を着実に推し進めることを2025年度活動の総体的方向として提示し、その実現のための政策的課題を明らかにした。

2024年12月に行われた朝鮮労働党中央委員会第8期第11回総会は、最も正義の理想と遠大な抱負を抱いて勇敢に進むわれわれの偉業の将来性と潜在力に対する楽観を百倍させ、自尊・自力の不敗の力でわが国家の全面的隆盛期を果敢に早めるための歴史的な進軍に大きな迫力を与えた意義深い契機となった。

変革と飛躍の2024年

編　集 ： 尹英日
翻　訳 ： 李鮮日
発行所 ： 朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日 ： 2025年11月

ㄱ-250880372453
E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp













ISBN 978-9946-0-2536-0
9 789946 025360 >